

【論文要約】

小売市場における流通業者の費用削減投資および効率性研究

賈 蕾

1980年代以降、ゲーム理論を活用したミクロ経済学の理論的発展に伴い、消費財市場における生産者、消費者および流通業者らの行動に関する理論研究は数多く発表されている。しかし、これらの先行研究では主に生産段階での投資に焦点が当てられており、流通段階での投資は必ずしも検討されていない。生産者が流通業者を介して財を販売する場合、生産者の利益は流通業者の行動にも依存する。

本論文では、独占的な生産者が複数の流通業者を介して財を消費者に販売する状況を想定し、流通業者による費用削減投資について分析する。その上で、投資水準の相違等により流通業者の効率が異なる場合における生産者の対応について検討する。

第1章の序論では、研究背景および研究内容と主要な結論を述べた。

第2章では、流通業者による費用削減投資を前提にし、流通業者の数、販売契約の種類、さらに契約を提示するタイミングの相違が、流通業者の投資水準、生産者と流通両者の利潤、さらには消費者厚生や経済厚生にいかなる影響を及ぼすかを検討した。

第3章では、流通業者による注文量や費用削減投資に先立って、垂直的取引関係にある生産者と n 人の流通業者の間での交渉によって販売契約が決まる状況を想定した上で、販売契約がどのような特徴を持ち、そのもとで各流通業者がどのような投資を行い、注文量を設定するかを検討した。

第4章では、小売市場における流通業者の効率性について分析を行い、生産者が販売効率の異なる流通業者を介して財を販売する状況を想定し、生産者は自らの利潤を最大化するために、販売効率の低い流通業者に優先的注文権を与えることはあるか。また、どのような条件で販売効率の低い流通業者に優先的注文権を与えるか等を検討した。

最後に、終章では今後の研究の展開方向を述べた。